

全国高等学校

観 光 選 手 権

高校生が地域を創る!

応募期間 2016年4月1日～7月1日

2016年全国高等学校観光選手権大会 2016.8.25 会場：神戸ハーバーホール

実施報告書



神戸山手大学

全国高等学校観光選手権大会実行委員会事務局

観光選手権 2016 決勝大会 結果

2016年8月25日、神戸ハーバーホールで「全国高等学校観光選手権大会」決勝大会が開催され、全国62校113プランから選ばれた8チームが12分間のプレゼンテーションを行い、厳正な審査の結果、グランプリ観光庁長官賞、金賞、銀賞、銅賞が各校に授与されました。



グランプリ 観光庁長官賞（副賞：旅行券10万円）

ほんまもんの和食素材を世界へ発信！伝統野菜が繋ぐ京の歴史と食文化の再発見
京都府 京都府立桂高等学校（2年 古田萌黄 瀧瀬楓子 延時歩 豊嶋悠莉 尾島あかり 高橋和奏
高澤咲恵 池原紫乃 橋本美月 島田朔夜 佐野涼菜 野村知穂）

金賞（副賞：亀井堂総本店大瓦せんべい）

青森お米物語～辛い記憶を乗り越えて～
青森県 青森県立名久井農業高等学校（2年 小笠原舞華 鹿島未夢 嶋守龍 佐々木健也 岩間暉）

銀賞（副賞：神戸風月堂神戸六景ミニゴルフ）

日本一の名水みずによる恵み～町がまるでレストラン 大野の幸でバイキング～
福井県 福井県立奥越明成高等学校（3年 萱岡夏月 久保春菜 藏敷優花 島田佳苗 嶋田悠人 宮崎佳奈）
岐阜は飛騨だけじゃない！岐阜西濃の魅力をもノづくり、ヒトづくり体験で紹介！！
岐阜県 岐阜県立大垣養老高等学校（3年 古川和 箕浦奈月 山田友梨香 衣斐玲奈）
モノづくり王国から、東海道「有松」で400年の「ホンモノ」体感ツアー～地域の美しさを全国へ！そして世界へ！！～
愛知県 名古屋経済大学高蔵高等学校（3年 井村知貴 近藤大智 2年 高橋愛美）

銅賞（副賞：有馬温泉炭酸せんべい）

別所に行きましょーめぐる七苦離の旅ー
長野県 長野女子高等学校（2年：川浦美紗 黒岩亜海 飯嶋瑞恵 笠原佑菜 齋藤和奏 宮澤里佳
小畑亜未佳 加藤詩菜 篠崎美和 両角陽華）
朝来で暮らす3日間の旅～地域とつながる田舎体験プラン～
兵庫県 兵庫県立生野高等学校（3年 竹村直登 上田大樹 澤田光緒 2年 荒川幹太 足立季莉
石田さくら 木島慧子）

「日本文化体験」Fake & Fantasy～日本の文化「F&F」を体験しながら、奇跡を感じるツアー～
山形県 山形県立村山産業高等学校（3年 大沼亮土 佐藤凌 関優作 高橋礼実）

※学校名のあとの（）内は決勝大会出場チームの応募メンバー名、下線は決勝大会発表者。

開催趣旨












「全国高等学校観光選手権大会」は、高校生自らが“地域の光”を見つけ出し、フィールドワークや地域住民へのヒアリングを行って企画した、オリジナルな地域発「体験型観光プログラム」を競い合う全国大会です。

地域の魅力の再発見、地域資源の活用方策、地域活性化のデザイン、また地元地域への“地域愛”醸成を目指す等、観光現象を通じた地域貢献活動（観光振興）とそのフィールドを活用した教育的な効果（観光教育）も期待しています。

高校生自らが体感した、「こんなものがある」「おもしろい」「そうだったのか」という発見と感動から、地元地域の自然・歴史・文化・産業等を掘り下げ見つめて下さい。急増する訪日外国人旅行者などもターゲットに加え、ターゲットも明記したうえで、「地域の光」（魅力）を来訪者へどのように伝えていくのか、また来訪者の興味や関心をどのように高めることが出来るのか、さらに来訪者をもてなすにはどのような配慮が必要なのか等、地域発の「体験型観光プログラム」を高校生の新鮮な思考で論理的にまとめて下さい。

地域の現場を訪れ、地域の方々の声を聞き、多様な方々の協力を得ながら、地域の新たな魅力づくりに挑戦（チャレンジ）して頂きたいと考えています。

開催概要

| | | | |
|-------|---|------|--|
| 大会名称 | 2016年全国高等学校観光選手権大会（愛称：「観光選手権2016」） | | |
| 主催 | 「全国高等学校観光選手権大会」組織委員会 | | |
| 共催 | 神戸山手大学（現代社会学部） | 特別協賛 | 学校法人三幸学園  |
| 協賛 | 特定非営利活動法人世界遺産アカデミー／株式会社 JTB 西日本／株式会社 KNT-CT ホールディングス／株式会社日本旅行／森トラスト・ホテルズ&リゾート株式会社／株式会社神戸ポートピアホテル／株式会社ジャパンインバウンドソリューションズ／株式会社やまところ／株式会社パイプドビッツ           | | |
| 後援 | 観光庁／公益社団法人日本観光振興協会／一般社団法人日本旅行業協会／一般社団法人全国旅行業協会／一般社団法人日本ホテル協会／全国高等学校観光教育研究協議会／公益社団法人ひょうごツーリズム協会／一般財団法人神戸国際観光コンベンション協会／株式会社観光経済新聞社／関西観光教育コンソーシアム／一般社団法人日本インバウンド教育協会／特定非営利活動法人世界遺産アカデミー | | |
| 運営事務局 | 「全国高等学校観光選手権大会」実行委員会 事務局 〒650-0006 兵庫県神戸市中央区諏訪山町 3-1 神戸山手大学内 [大会ホームページ] http://www.kanko-senshuken.org/ [e-mail] kanko.senshuken2016@gmail.com | | |

○大会組織委員

| | | | |
|------|-------|-----------------|--------|
| 委員長 | 山本 賢治 | 神戸山手学園・神戸山手大学 | 理事長・学長 |
| 副委員長 | 久富 健治 | 神戸山手大学 現代社会学部 | 学部長 |
| 委員 | 山口 範雄 | 公益社団法人 日本観光振興協会 | 会長 |
| | 田川 博己 | 一般社団法人 日本旅行業協会 | 会長 |
| | 二階 俊博 | 一般社団法人 全国旅行業協会 | 会長 |

○大会実行委員

| | | | |
|------|--------|------------------------|----------|
| 委員長 | 小野田 金司 | 神戸山手大学 現代社会学部 観光文化学科 | 学長補佐、教授 |
| 副委員長 | 秋田 寿 | 神戸山手大学・神戸山手短期大学 | 事務局長 |
| 委員 | 廣岡 裕一 | 和歌山大学 観光学部 | 教授 |
| | 宍戸 学 | 横浜商科大学 商学部 観光マネジメント学科 | 教授 |
| | 小畑 博正 | 株式会社 日本旅行西日本 営業本部関西広報室 | マネージャー |
| | 西村 典芳 | 神戸山手大学 現代社会学部 観光文化学科 | 教授 |
| | 山本 健 | 神戸山手大学 現代社会学部 観光文化学科 | 准教授 |
| | 小槻 文洋 | 神戸山手大学 現代社会学部 観光文化学科 | 准教授 |
| | 田中 祥司 | 神戸山手大学 現代社会学部 観光文化学科 | 講師 |
| | 古川 和也 | 神戸山手大学・神戸山手短期大学 事務局 | 入試アドバイザー |

○応募要領の概要

| | |
|------------------------|--|
| 募集テーマ | 地域発の体験型観光プログラム ※応募数は1校あたり3プランまで |
| 応募対象 | 全国の高校生3名以上のチーム ※指導教員がおり、学校長の推薦があること |
| 審査基準 ※予選・決勝 大会共通 | 1. わくわく感があり、期待を抱かせるか 2. ターゲットが明確で、集客できるか 3. 繰り返し参加したくなるか 4. 地域の課題の解消、地域貢献につながるか 5. 世界へアピールする力があり、外国人にも対応できるか |
| 予選応募方法 | 所定の応募シート（A4用紙1枚）・企画シート（A4用紙2枚）を作成し、郵便または電子メールに添付し大会実行委員会事務局宛に送付。 |
| 募集開始 | 2016年4月1日（金） ※同日、大会ホームページで募集要項を公開 |
| 募集締切 | 2016年7月1日（金） |

○応募高校一覧（決勝大会出場校含め 全62校 113プラン）

| | | | | | |
|--------------|------------------|-------------------|---------------|----------------|-------------------|
| 北海道 ・東北 | 北海道 | 北海道弟子屈高等学校 | 近畿 | 愛知県 | 愛知県立瀬戸窯業高等学校 |
| | | 北海道斜里高等学校 | | | 名古屋経済大学高蔵高等学校【決勝】 |
| | 青森県 | 青森県立名久井農業高等学校【決勝】 | | 三重県 | 三重県立鳥羽高等学校 |
| | | 青森県立青森商業高等学校 | | | 三重県立宇治山田商業高等学校 |
| | 山形県 | 山形県立村山産業高等学校【決勝】 | | 京都府 | 京都府立木津高等学校 |
| | | 山形県立米沢商業高等学校 | | | 京都府立須知高等学校 |
| 山形県立置賜農業高等学校 | | 京都府立北桑田高等学校 | | | |
| 関東 | 茨城県 | 清真学園高等学校 | 京都府立桂高等学校【決勝】 | | |
| | 栃木県 | 栃木県立宇都宮白楊高等学校 | 大阪府 | | 大阪市立扇町総合高等学校 |
| | 千葉県 | 千葉県立小金高等学校 | 兵庫県 | 兵庫県立生野高等学校【決勝】 | |
| | | 暁星国際高等学校 | | 兵庫県立小野高等学校 | |
| | 東京都 | 東京都立三宅高等学校 | | 灘高等学校 | |
| | | 岩倉高等学校 | 奈良県 | 奈良県立法隆寺国際高等学校 | |
| | | 東京都立つばさ総合高等学校 | | 聖心学園中等教育学校 | |
| | 神奈川県 | 法政大学女子高等学校 | 和歌山県 | 和歌山県立神島高等学校 | |
| | | 神奈川県立神奈川総合産業高校 | 中国・ 四国 | 島根県 | 松江市立女子高等学校 |
| | | 神奈川県立平塚商業高等学校 | | | 島根県立浜田商業高等学校 |
| 横浜市立横浜商業高等学校 | | | | 明誠高等学校 | |
| 中部・ 北陸 | 富山県 | 富山県立雄山高等学校 | | 岡山県 | 岡山県立矢掛高等学校 |
| | | 富山国際大学付属高等学校 | | | 岡山県立倉敷商業高等学校 |
| 福井県 | 福井県立敦賀高等学校 | 広島県 | | 武田高等学校 | |
| | 福井県立奥越明成高等学校【決勝】 | 山口県 | 山口県立宇部高等学校 | | |
| | 福井県立高志高等学校 | 愛媛県 | 愛媛県立西条高等学校 | | |
| 山梨県 | 甲府市立甲府商業高等学校 | 高知県 | 高知県立須崎高等学校 | | |
| 長野県 | 長野県阿智高等学校 | | 高知県立安芸桜ヶ丘高等学校 | | |
| | 長野女子高等学校【決勝】 | | 高知県立伊野商業高等学校 | | |
| 岐阜県 | 岐阜県立大垣養老高等学校【決勝】 | 九州 | 福岡県 | 福岡県立福岡魁誠高校 | |
| | 岐阜県立益田清風高校 | | 長崎県 | 長崎県立五島海陽高等学校 | |
| | 岐阜県立岐阜総合学園高等学校 | | | 長崎県北松農業高等学校 | |
| 静岡県 | 静岡県立沼津商業高等学校 | | 宮崎県 | 宮崎県立宮崎商業高等学校 | |
| | 静岡県立駿河総合高等学校 | | 鹿児島県 | 鹿児島県立南大隅高等学校 | |

○予選審査および決勝出場校発表

| | | | |
|--------|---|------|---------------|
| 予選審査 | 予選審査会による応募書類に基づく厳正な書類審査により、決勝大会出場8校8チームを決定。 | | |
| 予選結果通知 | 2016年7月15日（金） | HP公表 | 2015年7月18日（月） |

決勝大会

| | |
|-----|---|
| 趣旨 | <ul style="list-style-type: none"> 出場チーム 8 校 8 チームのプレゼンテーションを決勝大会審査委員が厳正に審査し、グランプリ観光庁長官賞 1 校、金賞 1 校、銀賞 3 校、銅賞 3 校を決定する。 併せて、パネルディスカッション「世界が求める日本の体験型観光とは？」を実施し、大会終了後の交流会で出場校生徒教員と審査委員・運営委員の交流を図る。 |
| 表彰 | グランプリ観光庁長官賞 1 校（副賞：旅行券 10 万円） 金賞 1 校 銀賞 3 校 銅賞 3 校（副賞：神戸銘菓） |
| 日時 | 2016 年 8 月 25 日（木） ※設営、出場校リハーサル 同日 9 時 00 分～12 時 00 分 ・開場 12 時 30 分 ・開会 13 時 00 分 開会挨拶（大会組織委員長、観光庁） ・決勝プレゼンテーション（発表 8 校、予選審査順位 8 位から 1 位への順で発表） ・パネルディスカッション「世界が求める日本の体験型観光とは？」 15 時 40 分 ・表彰式 |
| 会場 | 神戸市産業振興センター 3F 神戸ハーバーホール 〒650-0044 神戸市中央区東川崎町 1 丁目 8 番 4 号(神戸ハーバーランド内) |
| 入場 | 無料、事前申込不要 |
| 交流会 | 2016 年 8 月 25 日（木） 17 時 30 分～19 時 30 分 レストラン「はあとす。」（神戸市産業振興センター10F） |

○発表について

| | |
|--------|--|
| 内容 | 地域で行う体験の魅力が伝わるよう自由に工夫し、企画した地域発「体験型観光プログラム」について発表する。（パフォーマンスを競うものではない） |
| 発表時間 | 12 分以内（12 分経過時点で発表を打ち切る） |
| 人数 | 舞台上登壇者の上限は、発表者 5 名＋補助者（パソコン操作専属）1 名。 ※登壇者が 5 名以下の場合、発表者がパソコン操作を兼ねてもかまいません。 |
| 服装 | 自由。衣装や小道具の使用は自由です。 |
| 発表用データ | <ul style="list-style-type: none"> 事前に動作確認をし、前日までに下記宛てに発表用データをお送りください。 発表の際お使いになる動画や音声データも、発表用データに収めてください。BGM/効果音を使用される場合は、著作権フリーのものに限ります。 |

○決勝大会審査委員

| | | |
|-----|--------|--------------------------------|
| 委員長 | 丁野 朗 | 公益社団法人日本観光振興協会 総合調査研究所長 |
| 委員 | 福井 善朗 | 山陰インバウンド推進機構 代表理事 |
| | 中村 好明 | 株式会社ジャパンインバウンドソリューションズ 代表取締役社長 |
| | 村山 慶輔 | 株式会社やまところ 代表取締役社長 |
| | 北村 豪 | 株式会社 J T B 西日本 執行役員 団体旅行京都支店長 |
| | 富澤 美津男 | KNT-CTホールディング株式会社 地域事業部 部長 |
| | 松下 麻理 | 神戸フィルムオフィス代表 |
| | 原 一樹 | 神戸山手大学 現代社会学部 観光文化学科 准教授 |

○壇上

総合司会：坂本紀子

開会挨拶・表彰式プレゼンター：山本賢司 大会組織委員長 神戸山手大学学長

開会挨拶・表彰式プレゼンター：伊藤嘉規 観光庁観光資源課観光資源活用支援室長

パネルディスカッション「世界が求める日本の体験型観光とは？」

パネラー：丁野朗、福井善朗、中村好明、村山慶輔（兼 審査委員）

コーディネーター：小野田金司（神戸山手大学現代社会学部観光文化学科教授・学長補佐 兼 大会実行委員長）

結果発表：原一樹（審査委員）

第1部

開会挨拶（大会組織委員長 神戸山手大学学長 山本賢司）



訪日外国人旅行者数が 2000 万を超える時代になった。背景にはグローバル化の進展があるが、同時にローカル化にも注目が集まっている。観光もその地域の特色を発見・経験することがポイントになっている。地域の特色をどのように作りあげていくか、今回の決勝大会で、8 校の地域のいろいろな地域活性化の取組、特色が発表されることを期待している。グランプリを目指して、アイデアのあるプレゼンを行ってほしい。

来賓挨拶（観光庁観光資源課観光資源活用支援室長 伊藤嘉規様）



本日の観光選手権大会の開催をお喜び申し上げる。観光は我が国で非常に成長している産業のひとつだ。外国人の方々がとてもたくさん来られ、日本を見て感じて楽しんでいただいている。リピーターの方も多い。日本の多様性、奥深さの表れだ。一方、日本人、特に若い人が観光に出かけなくなっている。観光は好奇心、未知のものに関心を持つきっかけである。この観光選手権大会での体験型観光プログラム作りは、観光や自分の町・地域を知るきっかけにもなると思う。ぜひ今後も続いてほしい。出場者のような若い方が積極的にこの分野に関心を持ち、大人になっても観光産業・観光分野にかかわっていただければと思う。発表が楽しみだ。

① 福井県 福井県立奥越明成高等学校

日本一の名水(みず)による恵み～町がまるでレストラン 大野の幸でバイキング～

企画の概要（企画シートから）

福井県大野市の街中にいくつもある遊水地における「名水」を飲み歩き、名水の恩恵を受けた大野氏の特産品や名物を食べ歩きます。特産品や名物は味わうだけでなく、まちづくり会社が主催する「まち講座」のメニューに観光客対象の郷土料理・お番菜作り体験を新たに組み入れます。その講座は、市街地中心の商店街と連携して空き店舗を利用し、シルバーセンターによる人的な協力を得て展開します。里芋や豆腐、醤油など大野市ならではの素材を使った郷土料理・お番菜を味わうだけでなく体験ができれば、来訪者にとってははしない散策の楽しみ方が立体的になります。なお、郷土料理・お番菜はファストフード的に提供することで、来訪者はより多くの特産物や名物を味わうことができ、市内散策の楽しみ方に幅を持たせることができると考えます。このようにして、来訪者に大野市の「飲み」と「食べ」を十分に味わいながら、水のありがたさも感じてもらいたい企画です。



学校紹介

私たちの学校は福井県初の総合産業高校として、開校 6 年目を迎えています。地域に親しまれる学校・地域に信頼される学校・地域に必要とされる学校をモットーに、地域を創り出す学校を実践しています。

私たちが所属しているビジネス情報科は、5 年前に県内で初めて観光の学習を取り入れ、県内の観光学習の先駆者として、2 年生では地元観光ポスターの制作、3 年生では地元観光タウン誌の発行など、地域を発信する学習活動を積極的に行っています。

発表メッセージ

私たちの住んでいる福井県大野市は、湧水・水道水が美味しく水に恵まれた町です。また、その水の恩恵を受けた特産物・名産物が季節ごとに数多くあります。水の美味しさと特産物・名産物を多くの人に味わってもらい、そして、それらを大野市の宝として継承していきたいと思っています。水の有り難さとともに、水が良い、水が美味しいから美味しい食べ物がたくさんあることを、大野市民を代表して伝えたいと思います。



講評 福井審査委員



よく練りこまれた発表で感心した。なぜ水なのかをわかりやすく説明したランキングや、根拠となるデータを示したのもよい。講座を情報発信・流通の手段とする、郷土料理のファストフード化、ポストカードの仕組みなど、すぐれたアイデアだ。閑散期の波及効果を考えると、冬季限定の宿泊プランをプレゼントする案もよい。このアイデアをぜひレベルアップさせ、若い皆さんへの賛同者とともに、具体的な形にできるようにしていただきたい。また皆さんが第 2、第 3 の企画を次々に出されることを期待している。

② 岐阜県 岐阜県立大垣養老高等学校

岐阜は飛騨だけじゃない！岐阜西濃の魅力をもノづくり、ヒトづくり体験で紹介！

企画の概要（企画シートから）

本校は岐阜県西南部の養老町に位置する。この町には流れ落ちる水が酒に変わったという伝説の滝がある。養老町を含めた2市9町で構成される西美濃（西濃）には、海拔0mの濃尾平野から、1000mを超える揖斐川源流まで起伏に富んだ自然がある。しかし、県の観光は飛騨と東濃が中心で、外国人客もそこに集中する。一方、西濃は「水都」と言われる大垣市を中心に水資源が豊富で、この水を使ったものづくりが盛んに行われてきた。



そこで、特にものづくりに関心のある外国人を対象にした「じっくり触れる・学ぶ」の体験企画を提案したい。水に恵まれた土地で育まれた酒や醤油の製造を西濃の蔵元で仕込みまでを数日ずつ体験する。仕込んだ酒をオリジナルの升で楽しむため、日本一の生産量を誇る大垣で升づくりを体験する。また和食の調理体験を老舗宿で行い、日本人の持つ精神性を感じてもらおう。さらに伝説再現を目指し、日本で始めて滝から分離した酵母菌によるパン作りを私たちの学校で行い、日本の専門高校での学習や人づくりについて知ってもらおう。

学校紹介

岐阜県立大垣養老高校は岐阜県の西にあり、車で30分も走れば三重県、滋賀県です。2つの高校が統合してできた学校で12年目となりました。総合学科と農業科があり、私たちは農業科の中の食品科学科に在籍しています。学校の面積は農場を含めると甲子園球場5個分です。体育の授業で学校を一周するとヘトヘトになります。いつもは地元岐阜を意識した食品づくりをしている私たちです。よろしくおねがいします。



発表メッセージ

私たちは地元の滝（養老の滝）から分離した微生物の性質を調べたり、この菌を使った食品づくりをしたりしています。学校のある岐阜西濃は物づくりが盛んな土地柄で、観光産業は目立ったものはありません。そこで自分たちの学びを生かしたプランを考えてみました。滝近くのお店から大会出場にあたって温かいメッセージをもらいました。地域を元気にしたいと始めた活動でしたが、自分たちが元気になりました。



講評 村山審査委員



非常に面白かった。西濃地域の魅力の魅力がわかりやすく伝わってきた。外国人、特にヨーロッパの方に升づくり体験や酒造の工程を1日だけでなく全部楽しんでもらい、その間に地元のアクティビティをしてもらう内容の一つ一つは魅力的だ。ただ、全体をみると、外国人目線を踏まえて、このプログラムが外国人になぜ受けるのか、という作りこみが少ないと感じた。地元高校生としてこれをアピールしたい、という思いは強く伝わってきたが、実際に作ったプログラムが売れるかは、消費者である外国人の目線が重要だ。地元の外国人へのヒアリングなども発表に組み込めればもっとよかった。また、一回来た方から他の人に広めてもらいリピートを呼び込むにはどうしたらいいかという観点も入れて、さらに良いプログラムにしてほしい。

③ 青森県 青森県立名久井農業高等学校

青森お米物語～辛い記憶を乗り越えて～

企画の概要（企画シートから）

平成27年2月、青森県は、開発した米「青天の霹靂」が食味検査で待望の特Aに指定され、お祭り騒ぎとなった。なぜなら青森県、なかでも私たちの住む南部地方にはお米に関わる辛い歴史があるからだ。百年以上も前から冷害と戦ってきた先人たち。食べる米がなく、人まで食べて生き延びた悲しい記録が残されている。そこで先人は努力の末、寒さに強い雑穀を使った独特の食文化を生み出したのである。今食べてもその美味しさに驚く人も多い。それでも美味しい米を腹一杯食べたい県民は品種改良を継続。そして約10年もの年月をかけて念願の特A品種が誕生したのである。旅の魅力は食である。



この企画は、南部地方の辛く厳しい歴史と生み出された雑穀文化を体験するとともに、米の育種に命をかけた人々の開発ドラマを聞きながらその味を楽しむ旅である。もちろんご飯の友は、各市町村自慢の海と山の幸。さらに紅葉の八甲田やねぶたなど青森の定番観光施設も楽しむことができる。暗い記憶を乗り越えた奇跡の味をみちのく青森で堪能してください。

学校紹介

名久井農業高校は生徒数 270 名の小さな農業高校です。学ぶ内容は野菜、草花、果樹、そして施設園芸。農業高校なのに、なぜか米づくりを専門に学ぶ学科はありません。その理由は、今日の私たちの発表を聞いてもらえればわかるはず。先人たち、そして私たちのお米に対する想いの詰まった観光プランをどうぞお聞きください。

発表メッセージ

地域には冷害に苦しめられた先人たちの辛く悲しい米づくりの歴史があります。そのため、今まで積極的に紹介することはありませんでした。しかし今回、私たちはあえて地域の歴史を貴重な資源ととらえ、観光プランに仕立ててみました。取材を通して知った先人たちの知恵は、世界共有の文化遺産。美味しいお米にたどり着くまでの歩みをぜひ疑似体験してください。

コメント 中村審査委員



非常に興味深い。歴史体験も、先人たちの苦労を織り込んだストーリーで面白かった。ご飯のおともや、ねぶたやりんごもとあげたオール青森という広域的な視点、お米という着眼点も素晴らしい。ただ、旅で訪れる人のニーズは地元・提供側とは違う。観光で取り上げるには、別の視点のほうがよい。米は中国中南部から世界に広がったが、まだ農業技術が発展していない江戸時代、青森は世界的にも米作りの北限だった。気候を克服するための先人の努力・工夫の頂点に「青天の霹靂」がある。先人たちの挑戦を、苦労としてではなく、米の北限での世界に誇れる素晴らしいチャレンジとして、世界に発信するほうがよいと思う。お米の北限、人間のチャレンジのフロンティアを歩いてきた点に、観光地としての魅力がうまれてくるのではないかな。



④ 長野県 長野女子高等学校

別所に行きましょーめぐるってめくる七苦離の旅ー

企画の概要（企画シートから）

長野県上田市南西の山中に位置する別所温泉^{べっしょおんせん}は、長野県最古の湯として知られ、1400 年の長きにわたる歴史を持っています。日本武尊が発見した 7 か所の温泉を「七苦離の温泉」と名付けたという伝説から「七久里の湯」とも呼ばれています。四方を山に囲まれる小ぢんまりした温泉街ですが、国宝八角三重塔をはじめ中世の寺社仏閣が現存し、「信州の鎌倉」とも呼ばれてきました。

私たちはこの世俗から離れた“別所”を丸ごと体験してもらえるように、「七苦離クーポン」を考案しました。これは、別所の温泉や旅館、寺社仏閣だけでなく、飲食店や商店、あるいは体験施設を巡ってもらうためのものです。購入したクーポン（1 組 7 枚）と温泉街の各店舗の商品やサービスが交換できる仕組みを考えました。クーポン 700 円で 2～7 品の商品・サービス（800 円相当）と引き換えることができ、どの店舗のどの商品・サービスと交換するかを利用者が選択できます。クーポンを 7 枚めくることで、苦しみから離れることができるような商品・サービスを選んでいきます。



学校紹介

私立長野女子高校は長野県長野市に位置し、長野県内では最も歴史の長い女子高で、昨年創立 90 周年を迎えました。「新時代を生きる女性の育成」を学校目標とし、人としての優しさやぬくもり、奥ゆかしさを大切にしている学校です。全校生徒 200 名程度の小規模校ですが、4 年前には校舎を建て替え、新しくコース制を導入するなど、教育改革にも力をいれてきました。特に Nagajo（ナガジョ）メソッドと呼ばれる体験型の授業が日々行われています。

発表メッセージ

私たち長野女子高は、長野県上田市にある別所温泉での体験型観光プログラムを考えました。実際にフィールドワークを行って、この地域の一番の魅力はそこで暮らす人々にあると感じました。そこで、私たちは地域をまるごと体験でき、多くの地域住民の方と触れ合うことのできる「七苦離クーポン」を考案しました。20 代後半～30 代の女性をメインターゲットにしていますが、外国人観光客も親しみやすい内容になっています。



コメント 原審査委員



授業で地域史を学び、温泉や地域のデトックス戦略を踏まえて、新たな観光プランを自分で考えた点に好感を持った。外国語でのクーポンの紹介やデトックスのスムージーも面白い試みだ。地域の宝は住んでいる人達だと気づいた点も重要だ。観光で一番記憶に残るのは人々との交流だ。なお、七苦離という言葉に着目すれば、「仏教色の強い長野の最古の温泉」という強みを生かしたブランド化や外国人観光客誘致も考えられる。仏教聖地の高野山も海外の観光客に人気がある。真田丸やアニメ「サマーウォーズ」の舞台である点など、全体の状況のなかで、別所温泉がどんな状況にあってコアになる価値がどこにあるのか、大きな目線で考えて現在のプランに加えると、さらに面白くなると思う。

第2部

⑤ 愛知県 名古屋経済大学高蔵高等学校

モノづくり王国から、東海道「有松」で400年の「ホンモノ」体感ツアー ～地域の美しさを全国へ！そして世界へ！！～

企画の概要（企画シートから）

「有松」は愛知県で400年前から「有松絞り」の生産が盛んな東海道の間宿だ。今もなお、当時の美しい町並みが残っている。そんな、江戸時代から「モノづくり」が発達した地域で、日本人観光客と外国人観光客が古民家に宿泊し、地域のホスピタリティを体感しながら、地域の伝統・文化を共に学ぶ、1泊2日の地域資源を活用した「地域主導」の観光プランだ。江戸時代から残る建築物の「見せ方」（視点）を伝えることで「見え方」が変わり、有松のもう一つの「顔」を発見。地域の人しか知らないお話を聞き、職人さんとの「有松絞り体験」から「ホンモノ」に触れることで大きな感動を生む。朝食には、高校生が商品開発し、4色に染められた「有松絞り食パン」を、世界共通の「食べること」を通して、参加者の絆が深まる。「人と人との繋がり」が「地域のファン＝仲間」を増やす。



学校紹介

モノづくりが盛んな愛知県の名古屋市内有数の文教地区にある名古屋経済大学高蔵高等学校は、今年、学園創立110周年を迎える、歴史と伝統のある学校です。建学の精神「一に人物、二に伎倆」のもと、人格を高め、次に知識・技術を磨いていく、人物教育を大切にしている実践しています。

発表メッセージ

3年生の井村知貴君は、去年の8月、伝統産業の企業で1週間のインターンシップを経験、「有松」と出会い、高校生の明るいパワーで、日本と海外の高校生と一緒に地域資源を学ぶイベントや新名物の食べ物を開発するなど、地域と高校生が1年間頑張ってきた。モノづくりが盛んな愛知だからできる体験型観光プランを会場に届けます。グランプリ目指してがんばるぞ！



コメント 富澤審査委員



最初に名古屋をこき下ろしてから持ち上げるという手法や、協力いただいた皆さんを最後に紹介し、地元とタグを組んでいる点をしっかりアピールするなど、楽しいプレゼンテーションだった。ただ、旅行会社の立場でみると、なぜ有松という小さな地域に限定するのか、お客さんには伝えにくい。確かに美しい街並みだが、あまりに絞り込みすぎると商品としては難しい。また、非常に盛沢山なプランだが、なぜ有松絞りなのか、他の地域の絞りとはどう違うのか、ものづくり400年の歴史も説明したほうがよい。全体として、せっかくのあの町並みを、どう歴史を紐解いて見せていくのか、しっかり練り直していくと、よい商品になると思う。最後に触れていた空き屋対策は地域の課題なので、ぜひ宿泊活用を事業化してほしい。応援したい。

⑥ 兵庫県 兵庫県立生野高等学校

朝来で暮らす3日間の旅～地域とつながる田舎体験プラン～

企画の概要（企画シートから）

兵庫県朝来市は、「天空の城」竹田城跡や、生野銀山などの観光資源の豊富さだけでなく、「2016年版 住

みたい田舎ベストランキング (宝島社) 全国総合 1 位を獲得し、都市部と隣接する利便性や、移住のサポート体制などが高く評価されました。そこで、田舎へ移住を考える阪神間に住む 20 代~40 代をターゲットに、古民家を改装した家で 2 泊 3 日「朝来で家を持ち、暮らす」体験プランで移住促進をねらいます。移住者には、家や仕事を見つけること、地域のルールに慣れることなど多くの課題があります。このプランでは季節に合わせた自然を感じる体験や、地域行事への参加などから、田舎暮らしの良さや苦勞、地域課題を体験してもらいます。また、高校生が中心に「地域の仲人役」として参加者と地域の人とをつなぎ、移住前の不安を減らすサポートと、合わせて移住後も付き合える仲間づくりのお手伝いをします。新米移住者として地域を中から体験する観光プランです。



学校紹介

私たちは兵庫県朝来市で『あさご高校社会活動部』というチームで、1 年半地域を知る活動を続けてきました。卒業された先輩方、この活動をサポートして下さる大人の方、そしてなにより地域の方々が一緒になって朝来市を良くしようと思ったからこそ、この活動をここまで続けることができました。そのため、自分たちのためだけでなく、これまで私たちに関わってくださった方々のためにも今日のプレゼンテーションを頑張りたいです



発表メッセージ

兵庫県朝来市は、「天空の城」竹田城跡だけでなく、全国誌の企画「住みたい田舎ベストランキング」で全国総合 1 位になり、移住の面でも脚光を浴びました。しかしながら、まちの人口は年々減少していく一方…。そこで私たちは、「朝来市への移住」をテーマに、移住を考える人と地元の人とを繋ぐようなプランを考えました。観光資源などの「外面」の良さだけでなく実際に住んでみないとわからない「内面」の良さを伝えたいと思います。



コメント 松下審査委員

まず人口減少という難題に真っ向から取り組んだことに敬意を表したい。若い方々が、自分の地域の最大の課題にこれだけ一生懸命になっているなら日本の将来は明るい、と思えた。内容もよく考えている。単にきれいなところを見せるのではなく、皆がいろいろな役割を果たすことによって仲間になれるという、人と人とのつながりにフォーカスしてツアーを組んだ点、様々な年代・立場の方が関わることで、いろいろな方の不安やニーズに応えられる点にも好感をもった。一方、移住者の懸念は仕事と教育環境だろう。朝来で仕事を見つけたり自分の仕事を続けたりできるか、職場体験やインターネット環境の整備状況、都市との近さなどにも踏み込んで、具体的に提案されてもよい。教育環境では、高校生が子どもたちをどうもてなすのかも鍵だ。子どもが好きになれば、親も安心して移住を考えられるだろう。また全国の素敵な田舎を押さえてなぜ「住みたい田舎ベストランキング」1 位になったのか、は、重要なセールスポイントになると思う。

⑦ 京都府 京都府立桂高等学校

ほんまもんの和食素材を世界へ発信！伝統野菜が繋ぐ京の歴史と食文化の再発見

企画の概要 (企画シートから)

2013 年に和食が世界無形文化遺産に登録され、世界中から和食と共にその素材も注目されています。特に和食の代表格である京料理は、京都の食文化と歴史と密接に関係しています。また、その中心的な素材である京野菜は、盆地特有の気候と農家の創意工夫により生まれ、その独特の形や風味を残してきました。

そこで、何度か京都を訪れた外国人観光客に、ほんまもんの京野菜について学び・体験し・食する観光プランを提案します。京都の地名・歴史的建造物・風習など、京野菜に関連する事を学び、京野菜の農家で栽培・収穫体験を行い、その素材を活かした食事を味わいます。どこのガイドブックにも載っていない、新たなツアーを提供することで、SNS を利用した口コミによる情報発信することで、ほんまもんの和食素材を世中に発信します。また、近年、外国人観光客は日本でしかできない体験に注目しており、本ツアーではそのニーズに応えられると考えます。



学校紹介

私たちの通う京都府立桂高等学校は、普通科と農業を学ぶ専門学科があり、平成 25 年度よりスーパーサイ

エンスハイスクールに指定され農学を学ぶ科学的な見地で研究しています。専門学科では、2年生から大学のゼミ形式のような授業があり、私たちは「京の伝統野菜を守る研究班」に所属しています。学校の付近には最古の回遊式庭園で有名な桂離宮があり、その近くに私たちが栽培した桂うりを使用したかき氷やジェラートが販売されています。お近くに来たら是非御賞味ください。

発表メッセージ

京の伝統野菜は、精進料理やおばんざいなど京都独自の食文化を育んできました。そこで、伝統野菜にまつわる風習や歴史を学び、ほんまもんに触れることで、訪日観光客でしか体験出来ない「唯一無二」の観光プランを提案します。

私たちは、課題研究で「京の伝統野菜を守る研究班」に所属し、農家が先祖代々守ってきた「固定種」のシードバンクに関する活動をしています。今回のプランが伝統野菜を守る一助になればと考えます。

コメント 北村委員



すばらしいプレゼンテーションで、正直感心した。ニュース形式というアイデアもよいし、京都のことをよく勉強している。京野菜のことを1から教えていただいた気分になった。なぜ京野菜なのか明確で、切り口が面白い。京都には1600の寺社、伝統産業・伝統工芸品もあり、どこを観光しようか迷いがちだが、京野菜という一本の骨太の切り口で、あらゆる伝統工芸品、歴史建造物、寺社仏閣を紐付けている。聞いていて「行ってみたい、学んでみたい」というわくわく感があるし、季節によらず年中できることも旅行商品に適している。産官学連携を盛り込まれているし、非常によく勉強されている。素材の良さはよくわかるので、具体的に旅行のプランに落とし込めればよかった。健康ブームや第1次産業の活性化を背景に、旅行会社としても売っていききたいし、教えていただきたいと思った。



⑧ 山形県 山形県立村山産業高等学校

「日本文化体験」Fake&Fantasy～日本の文化「F&F」を体験しながら、奇跡を感じるツアー～

企画の概要（企画シートから）

2016年1月22日、亜熱帯地方の沖縄県で100年ぶりの雪が降り、その翌日、中華民国台北市の山間部で記録上初となる降雪が見られました。実はこの降雪を一目見ようと中華民国中の人々が退去して台北を訪れ、その結果「台湾島が傾く」とまで言われたほどです。また現在、東南アジア、特にタイでは日本ブームが最高潮、日本でおいしいものが食べたい、日本の文化に触れたいという人が急激に増加していますが、その中でも特に人気なのが「忍者(Ninja)」なのです。

そこで私たちは故郷山形で「雪」と「忍者」そして「日本文化」をキーワードに観光プランを作成しました。ただし、このプランには秘密があります。一つは「真夏の雪」。8月のある日、私たちの故郷山形県最北地方にたった一日だけ雪が降るのです。そしてわが町に住む現代の忍者、その忍者には大きな秘密があるのです。その他、ツアー中の食事や宿泊場所、すべてに共通するキーワードはズバリ「Fake & Fantasy」。このツアーにぜひ参加して秘密を楽しんでください。ちなみに今年2016年、真夏に雪が降るのは8月5日。なぜこの日なのかは、プレゼンテーションを見てのお楽しみ。

学校紹介

私たち山形県立村山産業高等学校は、平成26年度に県内唯一の商業・工業・農業の3学科併設校として開校した、創立3年目の高校です。また、複数の学科が連携し、先進的な産業教育を展開する高校及び産業・社会の変化を取り入れた教育活動を展開し、一人ひとりの進路希望が実現できる高校を目指しており、専門性を活かした環境保全活動やボランティア活動に取り組んでいます。部活動では運動部、文化部共に盛んで山岳部や自転車競技部、柔道部、ハンドボール部がインターハイや東北大会へ出場しています。

発表メッセージ


8月のある日、私たちの故郷山形県最北地方の、ある地域だけに、天からの白い手紙「真夏の雪」が届きます。決して、Fakeではない本当の雪が降るのです。たった1日だけのこの奇跡の日に、私たち企画したツアー



ーは行われます。このツアーのコンセプトは Fake & Fantasy。真夏の雪以外の Fake & Fantasy とは、一体何なのか、それはプレゼンテーションを見てのお楽しみです。私たちのプレゼンテーション、最後までじっくりとご覧ください。




コメント 丁野審査委員長


 よくまとまったプレゼンテーションで、盛り込まれた一つ一つのコンテンツもすばらしい。ただ、なぜそれが村山なのか、全体としての物語性が見えにくかったのが残念だ。特に海外の皆さんにどのように強く印象付けるか、もう少し頑張って磨きをかけていただければと思う。出場全チームにいえるが、特に遠方から来られる方、海外から来られる方からは、村山がどこにあるのかもよく分からない場合がある。たとえば河川流域に注目すれば、村山なら地元の最上川の出口である酒田に「おしん」で有名な山居倉庫などが、それぞれゆかりをもって存在する。このように広くとらえて、そのなかで村山をクローズアップするというやり方もある、という気がした。


第3部 パネルディスカッション「世界が求める日本の体験型観光とは？」


パネラー： 丁野 朗 公益社団法人日本観光振興協会 総合調査研究所長
福井 善朗 山陰インバウンド推進機構 代表理事
中村 好明 株式会社ジャパンインバウンドソリューションズ 代表取締役社長
村山 慶輔 株式会社やまごころ 代表取締役社長
コーディネーター： 小野田金司 神戸山手大学現代社会学部観光文化学科教授/学長補佐、本大会実行委員長

自己紹介を兼ねて

 丁野：最近では地域の物語づくりに関心を持って仕事をしている。国内外を問わず、魅力的な場所が数あるなかで選ばれるには、その地域がどのような地域ストーリーを持っているかが非常に大きい。今回皆さんに素晴らしいプレゼンをしていただいたが、その背後にある大きな物語をどう編集し、観光だけでなく地域のブランドとして大きな力をもたせていくかが非常に大事だと思う。

 福井：山陰インバウンド機構は、島根県と鳥取県が発起人となり、観光で地域経営する組織として4月に発足した日本版の広域連携 DMO で、民間含め16の構成団体が所属する。ミッションは、強くない観光地である島根・鳥取にどうやって外国の方に来ていただくか。観光・インバウンドを利用して、経済だけでなく、地域の魅力や住民の生きがい向上など、地域の活性化をどう進めるか、日々取り組んでいる。

 中村：日本のインバウンドの課題を解決する会社のトップとして年間200回ぐらい講演・講義をしている。日本の課題はインバウンドを推進する国際観光人材の不足だと感じており、今日の高校生のすばらしいプレゼンに大きな可能性があると感じた。高校生の年代にこうした教育を受け体験をすることはすばらしい。高校から地元の観光素材を世界に発信していく、という観光選手権の取り組みは、普遍的に取り組むスキームであってよい。自分としても大変勉強になった。

 村山：2007年からインバウンドに特化したコンサルティング、メディア、人材マッチングのビジネスを展開している。高校時代にALTの先生と出会って外国に興味を持ち、海外留学を決め、アメリカ4年、インド半年を経て帰国、インバウンドの仕事をしている。2006年から手伝っているNPO日本文化体験交流塾が提供する、数百ある体験プログラムのなかで一番人気は相撲、それも相撲の稽古を見てちゃんこを食べるものだ。次が侍・忍者体験。わかりやすい検索されているものが売れていることがわかる。

個人的に行ってみたいプランは？

村山：名古屋経済大学高蔵高校。単純に一番面白かったし、発表者のプレゼンテーションの仕方、地域に入り込んで様々な活動をしている実体験の迫力があり、行きたいなと思えた。さらに、実際に参加者にアンケートし、地域への理解が深まり、もっと行きたくなったという結果を示されているなど、好感をもった。

中村：兵庫県立生野高校。感動した。移住者を呼び込むためのツアーだが、移住しなくても朝来が第2の故郷として、元気がない時に思い出す場所になれば、という旅を目指している。最終的には観光は人だと思ふ。街並みやお祭りもそうだが、ターゲットを絞ってこんな人に来てほしい、というところに心が動いた。人口減少は全国の地域が抱えるが、単に爆買いの外国人や1時間半程度滞在するだけのツアーでは解消されず、町も持続可能にならない。最終的に定住人口の増加につなげるという観光のチャレンジを示した提案だ。

福井：消費者目線では、岐阜県・大垣養老高校のお酒、青森県・名久井農業高校のご飯。どちらも自分の好きなもの。消費者はそんなものかもしれない。

丁野：青森県・名久井農業高校。まさに青天の霹靂で一番驚いた。観光の「光」は百年スパンで見ると時代によって変わる。その光をどう物語にできるか、と考えると、同校のプランでの光の当て方、発掘の仕方には

非常に感動した。実際に旅行プログラムにするのは非常に難しい。特に旅行のプロは大変だと思われるだろうが、観光の資源をきちんと見つけてきてどう光を当てるかという点で、同校を挙げたい。

いつもプロにアドバイスされている皆さんが、全体の印象や、観光選手権の高校生へのアドバイスは？

村山：皆さん、パワーポイントの使い方を含めプレゼンテーションの水準が高い。自信を持ってよい。内容では、旅人・外国人目線より、提供者目線の話が多かった。旅行を商品化し、お金をもらい、継続的にまた来てもらうには、消費者の目線が大事だ。意識して目線を変えよう。高校生なので社会経験や海外の方との接点は限られるかもしれないが、日本人の見込み客や経験者、外国人・ALTの方に聞くなど、ヒアリングをしっかりすれば経験不足は補える。プログラムを作った後の集客もポイントだ。客がいなければビジネスは成り立たないので、魅力的なものをいかに発信し集客するか、もう少し踏み込んで展開するとよい。また、今回は地元の食・野菜をつなぐものが多かったが、外国人はニューツーリズム、スポーツやエコツーリズム、単純に自然散策を楽しむなどのテーマに興味関心があるし、買い物などテーマ性のある観光もあるので、多角的に地域の資源を見直し、新しい切り口を見つけてほしい。

中村：旅の消費の半分はショッピングだ。海外旅行や国内旅行でも旅の思い出（体験）と地元の物産を買って帰ることは結び付いている。観光はまさに農林水産省が言う6次産業だ。サービス産業だけでなく、地元の産業すべてが観光産業になるという視点で考えてほしい。また、インバウンドは海外・地域外の人たちを地域に呼び込む仕事である。どうしても自分の町を売り込もうとしがちだが、旅人が何を求めているかを考えると、実はひとつの町、ひとつの県では狭すぎる。県でとどまらず、隣町や隣の県を含むもう少し大きい広域で考え、より大きなストーリーのなかに自分の町を位置づけて考えてみてほしい。

福井：高校野球の甲子園で島根代表の栄高校と高知代表の明德高の試合を観戦し、いい大人が地元チームを無邪気に応援するのを見た。観光選手権もそうで、地元の大人が皆さんのプランを応援する味方になる。プロの商品はそうならないが、地域の方が一生懸命作っている商品は地域が応援団になる。自分の地域をどうするかという視点を忘れず、たくさん売って儲けようではなく、いいところはどこか、見つめ直してほしい。

丁野：海外に物語を伝えるのに一番大事なことは地元の人が地元の歴史や誇り、自覚を持つことだ。それがないと何も伝わらない。8校の皆さんはよく勉強していて、こういうことが本当の意味で観光の力になるのだと改めて強く感じた。また、桂高校のプランは本当によくできていた。元来、食・酒・野菜など、地域で一番大事なものは真っ先にお寺・神社に納めていた。今は寺社と食と伝統工芸品を別々にとらえがちだ。これらを意識的につないで見事なストーリーにしている。プロでも気づかない視点で、私自身大発見だった。

この地域の体験型観光が面白いというお勧めは？

村山：広島市から車で2時間、人口約6500人、高齢化率45%の広島県安芸太田町がインバウンドに取り組んでいる。欧米の富裕層を扱う旅行会社に地元を見てもらい、昨年夏から、地元の石見神楽の練習に体験参加するアクティビティを始めた。練習は平日夜なので地元の旅館にもお金が落ち、新たな体験メニューも始まった。何も無いと思える場所でも、外国人の目線を入れて売れる商品が見えてきた例だ。もう一つは体験型観光商品を売るサイトVoyajinで大人気の、岐阜羽島の鍛冶屋で1日かけて日本刀を作る4万4千円の体験プランだ。そんな外国人のニーズがあるのも驚きだ。今回考えたプランをVoyajinに載せて反応を試す、反応があれば作ってしまうなどすると、これまで思いつかないプログラムがでてくるかもしれない。

中村：楽しかったのは地域連携ができていくところだ。観光施設の体験単独では記憶に残らない。先日行った富山県みなかみ町の月夜野ビードロパークでは、自分でデザインしたビールグラスをサンドブラストで作れる。ガラス職人になったようで楽しい。それが夜には宿泊先の旅館に届き、自分の作ったグラスで地ビールを飲む。非常においしく感じた。地域で連携しているのがよい。もう一つは、島根県の大山の山上から日本海に向けてダウンヒルをロードバイクで下るプログラムだ。ハードワークではないし、その間に地元の牧場で取れたヨーグルトを食べたり、道の駅で食材を買ったり、ガイドと一緒に町をめぐる。町の人とのインタープリターのガイドがいることで、人々の暮らしや歴史がわかるのがよい。

福井：大山ダウンヒルについて付け加えると、境港に入るクルーズ船に自転車を積んできて大山に登りにいく韓国の方がいる。自転車好きをターゲットするにはよい。山陰では隠岐の島を紹介したい。国内の観光客は増えていないが海外、特に欧米からの観光客が急増している。ALTなどで来て気に入って定住した外国の方が観光案内所において自分たちの言葉で案内してくれる。SNSのロコミも広がり、定住人口を含めて増えている。イギリスのライターは旅行記に、故郷のシェットランド地方に似た「Hidden paradise（隠れたパラダイス）」だと書いた。一方、カナダ人の知人は隠岐の島をグリーンツーリズムと見ている。響くものはそれぞれ違っても、いろいろな国の人に隠岐の島はよいと思われていることがわかる。

丁野：古代に砂鉄を集めてたたら製鉄を行った奥出雲は、今は全国の刀匠に材料の玉鋼を供給する唯一の場所だ。ここには、鉄・刀を作る経験だけでなく、古代鉄を作るプロセスが地域の農業や民俗にどう関わったかという物語があり、最近日本遺産にもなった。砂鉄を選別した「かんな流し」の跡が棚田になり、今では仁多米というブランド米が生産されている。製鉄の神、金屋子神を祀る民俗もある。面白いのは各地域で役

割・特徴が違う点だ。たたらは旧横田町、民俗は広瀬村、旧吉田村は新日鉄、安来は日立金属の現代鉄と、違うものを組み合わせ、全体を回る仕組みになっている。もう一つは、兵庫県加古川の「かこっとん」だ。全国でシルクや綿など昔の産業の再生に地元の商工会や工業会が取り組んでいる。加古川は昔播州木綿の一大産地だった。加古川では農業組合がもう一度オーガニックコットンで製品をつくりたいと綿の栽培を始め、靴下関係の11の企業が集まり工業会で受けて製品にしている。普通の靴下より5倍ぐらい高く売れてマーケットもある。綿花を摘むところから製品になるまでがわかるし、現在の3haを120haまで拡大して地域の産業に再生しようとしている。それが人の心を打つ。このように産業と観光がうまくつながると地域の総合力が活きると思う。

最後に、世界が求める日本の体験型観光は？

村山：観光庁がまとめた「訪日観光の3つの価値」に、日本人の気質、作品、生活の3つが挙げられている。作品には伝統工芸や食、酒、生活は祭りなど。そう考えると日本の魅力はいくらでもある。キーワードは「ローカル」だ。多くの旅人が日本でしか、地域でしかできないものを求めてやってくる。リピーターが増えるなかで、考えた内容が本当にその地域だけのものなのか、突き詰める必要がある。ローカルの魅力を伝えるには、地元のことを大好きで理解している若い方が育っていくことが大事だと思う。若い皆さんが地元の魅力を発掘し発信していくことが、結果的に外国人の方が体験しお金を落とすことにつながるのだと思う。

中村：書き取ってほしい。「今住む町も我が故郷。今働く町も我が故郷。」皆さんが活躍すればするほど町を離れて観光や観光以外の仕事をするかもしれない。今住んでいる場所だから、仕事している場所だから力を入れるのではなく、それが自分の故郷だという思いで観光に取り組んでいけば成功するだろう。最終的な観光の価値は、地元の人がある町を故郷として誇りに思っているかで決まる。観光産業は故郷を売り込む仕事だ。だが、今では生まれた場所で死ぬ日本人はほとんどいない。故郷ではないところで仕事だから観光の仕事をしている人が多い。大学進学したり、就職したり、転勤族になって転々とするかもしれないが、どんな町でも住み働く町の全部が自分の故郷だという思いで観光をやらないと、単なる金儲けの産業になってしまう。「今住む町も我が故郷。今働く町も我が故郷。」仕事に就いたときに思い出してほしい。

丁野：皆さんの地域にいる外国籍や帰化した方が、どんなふう地域を見て、母国に向けて発信をしているかがとても大事だ。栃木県足利市の足利学校にある孔子廟に、孔子の50代直系の孔さんという女性が来た。その時にちょうど積奠（せきてん）という孔子の祭りをやっていた。中国では見たこともない祭りに感動した孔さんは感動して足利に住み、足利のことをライブで発信するようになり、それを見た中国のお客さんが東京を経由せずに彼女を訪ねて直接来るようになった。皆さんの地域にもそうした海外とのつながりがある方がたくさんいるはずだ。そうしたものを意識的に考えてみていただきたいと思う。

表彰式

審査委員、各校代表が壇上に揃った後、原一樹審査委員からグランプリ観光庁長官賞、金賞、銀賞、銅賞の順に受賞校が発表され、続いて銅賞、銀賞、金賞、グランプリ観光庁長官賞の順に表彰が行われた。

グランプリ観光庁長官賞の賞状および副賞（旅行券10万円）は伊藤嘉規観光庁観光資源課観光資源活用支援室長から、グランプリのトロフィーおよび金賞、銀賞、銅賞の賞状は山本賢司大会組織委員長から授与された。また、金賞受賞校に丁野朗審査委員長から、銀賞受賞3校に審査委員の福井善朗、北村豪、富澤美津男の3氏から、銅賞受賞3校に同じく審査委員の中村好明、村山慶輔、松下麻里の3氏から副賞の神戸銘菓が手渡された。最後に集合写真を撮影し大会は終了した。



- 銅賞：賞状授与・副賞授与
- ・長野県 長野女子高等学校
 - ・兵庫県立生野高等学校
 - ・山形県立村山産業高等学校

- 銀賞：賞状授与・副賞授与
- ・福井県立奥越明成高等学校
 - ・岐阜県立大垣養老高等学校
 - ・愛知県 名古屋経済大学高蔵高等学校

- 金賞：賞状授与・副賞授与
- ・青森県立名久井農業高等学校

- グランプリ 観光庁長官賞：賞状・副賞授与・トロフィー授与
- ・京都県立桂高等学校

制作物一覧

決勝大会リーフレット



(デザイン：吉村一葉)

Web サイト

大会概要・応募書類・予選情報など (<http://www.kanko-senshuken.org>)



決勝大会案内 (<http://www.kanko-senshuken.jp/>)



Facebook

(<http://www.facebook.com/kanko.senshuken2016/>)

総括

平成 21 年から毎年夏に、全国高校生観光プランコンテスト（「観光甲子園」）（第 1～6 回大会：神戸夙川学院大学、第 7 回大会：追手門学院大学）が「観光甲子園」組織委員会によって開催されてきた。この事業は、高校生が観光への興味関心を高め、地元の魅力を再認識する機会として、多くの賛同を頂いてきたが、諸般の事情から「観光甲子園」としての継続は困難となり、平成 27 年第 7 回大会をもって開催を終了することとなった。

こうした事態を受け、「観光甲子園」組織委員会とも協議の上、全国の高校生からオリジナルな地域発「体験型観光プログラム」を募集し競い合う新たな大会として、別名称、別組織による「全国高等学校観光選手権大会」を発足させることとなった。今年度の大会には、観光庁をはじめ、多くの企業、団体、行政機関にご後援、ご協賛いただき、北海道から鹿児島県まで全国 62 校から 113 プランのご応募を頂いた。決勝大会では予選審査で選ばれた 8 校 8 プランの見事なプレゼンテーション、審査委員による講評やパネルディスカッションが行われ、表彰式後には出場した高校生と審査委員との交流会も行われた。このように新たな形で大会が無事開催できたのは、ひとえに後援・協賛いただいた企業、団体、行政機関のご支援とともに、応募いただいた生徒の皆さんの努力、生徒たちをサポートくださった各校教職員の皆さんや地域の方々のご理解のおかげである。この場を借りて、感謝を申し上げたい。

日本政府が訪日外国人旅行者数の目標を 2020 年に 4000 万人に引き上げ地方の活性化につなげようとするなか、この大会が、高校生の新鮮な視線による地域の魅力の再発見、地元地域への“地域愛”醸成、そして訪日外国人旅行者の期待に応える新たな地域発の「体験型観光プログラム」の創出につながり、観光振興に寄与していくこと、さらに、こうした観光プログラムづくりを通じて、若者が旅の意義・素晴らしさを知り、自分も「旅に出たい、出よう」という気持ちや、旅行への興味・関心を高め、将来の旅行需要喚起につなげる機会ともなることを期待したい。

全国高等学校観光選手権大会実行委員会事務局 小槻文洋



神戸山手大学